

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【異学年との交流活動】	本校は、各学年単学級で全6クラスという小規模校であるため、他学年でも児童同士が顔見知りであったり、6年間同じクラスで気心が知れていたりする中で成長していく。このことを強みととらえ、互いに理解し合い、差別や偏見のない人間関係を学ばせようとする活動である。木曜日のロング昼休みに縦割り班活動(ハッピータイム)を実施した。ねらいは「遊びや話し合いの中で学び合う機会をもつことで相手を思いやる心を育てる」である。各学年2～4名の児童から成る6班編制のグループをつくり、学期ごとに集団遊びの内容を決め、外遊びや室内での遊び、体育館での遊びなどを行った。 成果 実施の際には6学年児童が低学年児童を迎えに行くなどして、思いやりや信頼し感謝する心情を育てられた。また、異学年で交流することで、子供達が自分の役割を考え動くことができた。 課題 縦割り班活動を楽しみにしている子どもが多くいる一方、縦割り班活動をあまり好きではない児童もいる。
2 実践2 【集会など行事的な活動】	仲町小学区には、様々な伝統が残されていることから、交流センターと連携を図るなどして主に高齢者とのふれあいを通して尊敬と感謝の心情を育てた。「親子学習会」では、3学年がお年寄りに、竹とんぼ作りを指導してもらった。「日立風流物の体験」は、4年生の総合的な学習の時間で『日立風流物』で受け継がれてきた太鼓の演奏やからくり人形について学び、体験活動を実施した。5年生は地域の方に向けて「大煙突についての紙芝居」を共楽館で発表した。 成果 地域の方とのふれあいを通して、高齢者に対して尊敬と感謝の心情が育まれた。また、地域の方とたくさん交流したり、紙芝居を発表したりすることで、子ども達の地域への所属感がより高まった。 課題 コロナ禍以前は地域の方ともっと交流があった。コロナ対策をしながら、コロナ禍以前のように交流を深めていきたい。